

外国人の子育てと住まい： エスニシティ・ジェンダー・貧困に着目する実証研究

国際日本文化研究センター 孫 詩彧

●研究概要

本研究は、日本で暮らす外国人家族の子育て生活を、住まいをてがかりに解明するものである。具体的に、「外国人」という身分のもと、エスニシティ・ジェンダー・貧困などのファクターが複合的に作用しているなか、(1)住まい(住居、立地、環境など)によって子育て家族の生活がどのように形成されているのか、(2)そこにいかなる課題を抱え、子どもがどのような影響を受けているか、を明らかにする。

●背景

近年、日本では貧困の世代的再生産や子どもの貧困が注目され、実証研究や自治体調査も進んできた。しかし、顕在化した貧困だけでなく「未然」の段階で生じる不利やリスクは十分に把握されていない。また家族研究においても、担い手拡充による解決を前提とする議論が、機能制約を抱える家族の困難を見落としがちである。本研究は、ジェンダー体制や資源配分の不均衡、外国人家族の脆弱性を視野に入れ、貧困と家族の課題を多角的に検討する。



ジェンダーの観点から外国人子育て女性のキャリアについて分析して共著を出版
★これを中心に報告

●方法

＞インタビュー調査・参与観察

日本の大都市(首都圏、札幌、仙台、名古屋、京都、大阪、福岡など)で暮らす、夫妻とも中国人の家族を対象に半構造化インタビューと参与観察を実施。2023年の6月から1年間をかけて行い、20ケース前後のデータを集めた。各フィールド都市の不動産/仲介業者、外国人支援NPO団体などにも調査。

調査は子育て家族の住宅選定・契約・引越ならびにその時の出来事、子育て生活における住まいの意味づけ、困り事、ならびに子育てと住まいをめぐって個人のキャリア形成などをについて調べた。

＞オンラインアンケート調査

日本で暮らす中国人家族、中国で暮らす中国人家族、日本で暮らす日本人家族にそれぞれアンケート調査を実施。調査は主にそれぞれの国における子育て家族の居住環境を把握し、国際比較を行うことが目的である。調査結果について現在分析中。

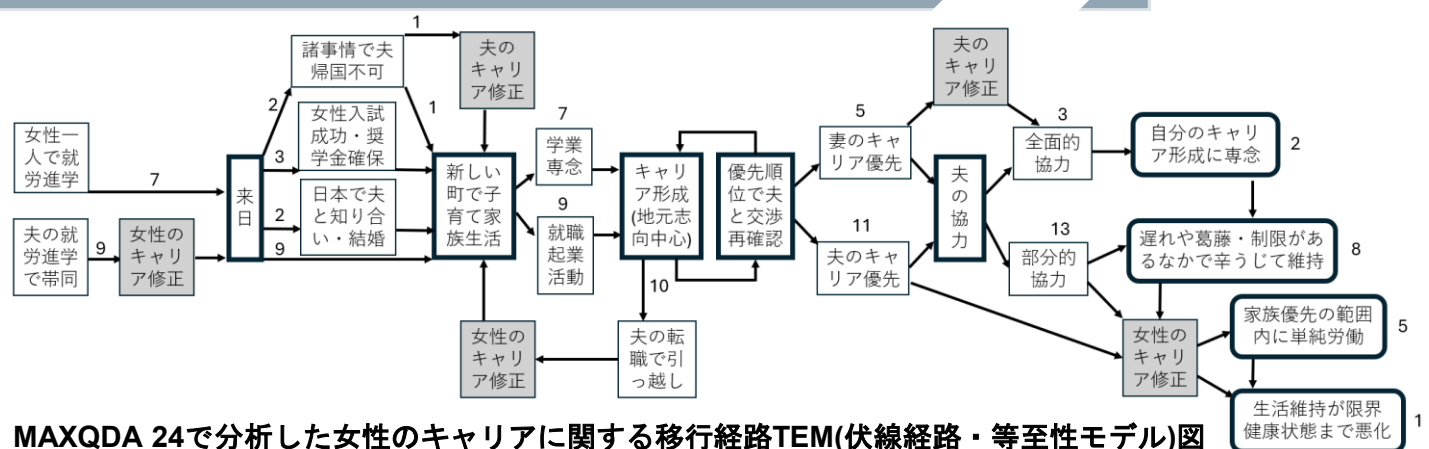
日本では女性の高学歴化が見られる一方、社会進出が遅れている。女性のキャリア形成、とりわけ高学歴で日本に移住を実現した外国人女性のキャリアは夫や家族との関係性においてどのような可能性があるか。住まいはその可能性をどう影響するか。

●分析結果

まず、女性のキャリア形成は動態的なプロセスで、夫妻間の交渉や現実的な状況に合わせて調整される。

次に女性はその夫よりも頻繁にキャリアを修正し、中断を経験する傾向が確認される。住まいの立地などがしばしば女性のキャリアを制限する要因となる。

ただし「異国」(母国の伝統と離れ)の「大都市」(たくさんのキャリアチャンスに恵まれ)で暮らす「外国人」(日本の規範とも距離を置きやすい)の立場は、キャリア形成を志望する女性たちに新たな可能性を与えている。



●考察

本研究の分析はまだ途中段階であるが、当面の結果からRQを次のように答えられる。(1)外国人子育て家族は不動産賃貸/購入市場において不利に直面し、選択肢を限られる中で、女性のキャリアを犠牲に夫や子ども(いわゆる「家族」)のことを優先した住まい確保の戦略をとることが多い。(2)子どもに影響を及ぼさないよう、親はできる限りの努力をしながら時に祖父母などの力も借りているが、それでも子どもは転校や遠距離通学を余儀なくされ、家計によって栄養不足・生活スペースの不足といった課題に直面することがが見られる。これらについて継続的な分析で詳細を明らかにしていきたい。